

NO. **401**  
2023.4・5

# CENTER NEWS



## 目 次

組合員代表者交代にあたって	池田 泰士 …………… 1
3・4月定例理事会	…………… 2
入所して5年になりました	仲西 渉 …………… 3
入所5年目を迎えて	田上 大稀 …………… 4
顧問退職のごあいさつ	澤 孝平 …………… 5
令和5年度若手技術者室内試験体験会開催報告	松川 尚史 …………… 6
若手技術者室内試験体験会に参加して	中本 笙瑛 …………… 7
令和5年度入所式開催報告	中山 義久 …………… 8
「人間死ぬまで勉強」	中廣 俊幸 …………… 9
委員の独り言	中谷 英之 …………… 11
編集後記	杉原 普作 …………… 12

### 表紙写真 大募集！

センターニュースの表紙にあなたの撮った写真を載せませんか？  
写真とその表紙の説明（撮影した状況やその物の説明、言いたい事など  
なんでも構いません）を付けて [info@ks-dositu.or.jp](mailto:info@ks-dositu.or.jp) にお送り下さい。  
採用された方にはちょっとしたお礼もごございます。  
皆様のご投稿をお待ちしております。

### 表紙説明

センターニュース 400 番台の第 1 号の表紙写真は、昨年 11 月に開催した三団体合同見学会先である関西国際空港です。500 号に向けての「新たな旅立ち」としては、幸先がよいのではと自賛しています。上の写真は展望ホールから夕陽をバックにした空港全体です。雲が厚く夕陽が鮮明でないのが残念です。一方、下の写真は空港南側の護岸で、その奥には第一滑走路と数基の飛行機も見受けられます。撮影場所は護岸から突き出た航空燃料用タンカーバース（栈橋）で、普段は立ち入れないところです。

（写真・文：荒谷 賢一）



## 組合員代表者交代にあたって

有限会社ジオ・ロジック  
代表取締役 池田 泰士

お世話になっております。有限会社ジオ・ロジックの池田と申します。

関西地盤環境研究センター様からセンターニュースの原稿依頼を受けまして、僭越ながら自己紹介を踏まえ書かせていただきます。

昨季より、有限会社ジオ・ロジックの代表取締役に就任させていただきました。この業界に入ってまだまだ未熟者ではございますが、前任者同様ご支援ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

私が地質調査業界に入ったきっかけですが、父が現場でオペレーターとして作業をしており、学生の頃からアルバイトとしてよく現場へ同行していました。その後、何度か同行していくうちに、地質調査業は意外と奥が深く徐々に興味が湧いてきて、学生生活の終了後、そのままこの業界に入りました。そこから10年程、現場での作業を色々と実務し、現場の技術を勉強させていただいたのち、ご縁があった現会社にお世話になりました。現会社に入ってから、現場管理やデータ整理等の業務を行っており、色々と勉強させていただいております。関西地盤環境研究センター様に初めて行かせていただいたのも、現会社に入ってからになり、初めは土質試験等に関しての知識が余りなく、職員の方々に色々と親切にご教授していただきました。そのおかげで、色々な知識を身につけさせていただく事が出来ました。これからも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

また趣味の話にはなりますが、最近は健康のためにとゴルフを始め、仕事が早く終わった日には打ちっ放しに行ったり、休日にはコンペや友人とコースを回ったりして楽しんでおります。関西地盤環境研究センター様のコンペにも、今後は出席させていただきたいと思っておりますので、その際は皆様よろしく願いいたします。

乱文乱筆な自己紹介になりましたが、これで終わりにさせていただきます。

最後になりますが、関西地盤環境研究センター職員の方々をはじめ組合員様の益々のご発展とご活躍を祈念いたします。

令和5年3月23日（木）14時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事10名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

**【報告事項】**

- 1) 一般経過報告  
2月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 2月分事業報告の件
- 3) その他の件  
(1) 令和5年度行事予定について

**【審議事項】**

- 1) 令和4年度利益予想及び令和4年度職員期末手当並びに剰余金処分（案）検討の件
- 2) 令和5年度（第44期）事業収入計画（案）収支予算（案）について
- 3) 新顧問契約について
- 4) その他の件

令和5年4月25日（木）15時00分より、ガーデンシティクラブ大阪会議室にて理事10名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

**【報告事項】**

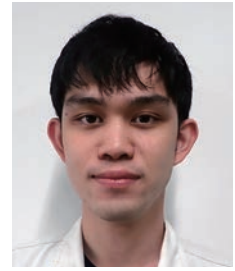
- 1) 一般経過報告  
3月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 3月分事業報告の件
- 3) その他の件  
(1) 組合員企業代表者変更及び組合員企業移転について  
(2) 全地連創立60周年記念式典表彰者事前調査結果について

**【審議事項】**

- 1) 第43期通常総会議案書（案）承認の件
  - (1) 令和4年度事業報告書（案）承認の件
  - (2) 令和4年度決算書（案）承認の件
  - (3) 令和4年度剰余金処分（案）承認の件
  - (4) 令和5年度専務理事報酬を含む役員報酬（案）承認の件
  - (5) 令和5年度借入金限度額（案）承認の件
  - (6) 令和5年度事業収入計画（案）並びに収支予算（案）承認の件
- 2) 次期役員の内
- 3) 第43期通常総会当日の役割分担について
- 4) 組合員新規加入申し出の件
- 5) 中期経営計画の総括について
- 6) その他の件



# 入所して5年になりました



地盤技術室 仲西 渉

2019年にセンターに入所して4年が過ぎ、今年度で5年目となります。まだ22歳ですが、年々時間があっという間に過ぎていくような気がします。学生時代から社会人として働くという環境の変化に戸惑っていた頃を懐かしく思いました。

入所してからの研修期間では、各試験を1～2週間各試験担当の方から仕事全般を教えてもらい、こういう風に試験を行っていたのかと興味関心を持ちました。

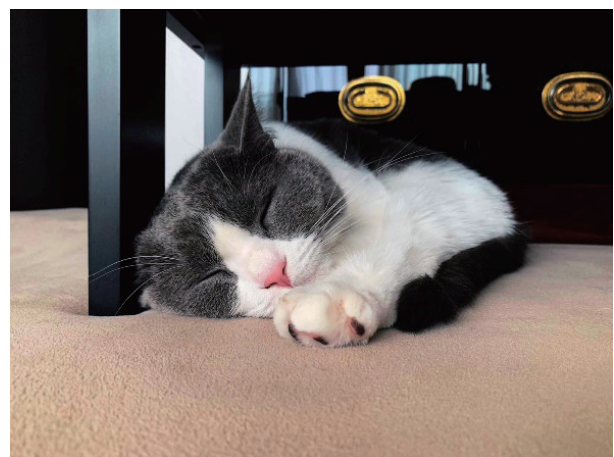
この4年間で物理試験、一軸圧縮試験、三軸圧縮試験の担当をしましたが、どの試験でも毎日のように新しい発見や学びがあり、疑問があれば先輩の方々が丁寧に教えてくれるのでとても充実した日々を過ごしています。

働き始めてから休日の過ごし方にも変化があり、家にこもって本を読む、ゲームする、猫と遊ぶ、たまに外に出て3～4キロ程走るといった外に出ることが少ない過ごし方をしていたのですが、業務でほぼ1日中室内にいるからか、大阪から出て京都や和歌山といった近隣の県の名所を気の向くままに散策したり、山登りをするといったアウトドアな活動が多くなりました。

今後の目標としては、1年目の時に目標にしていたコミュニケーション能力の向上、そして試験についてまだまだ分からないことがたくさんあるので日々学びながら様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。



三軸作業中



愛猫“てん”

# 入所5年目を迎えて

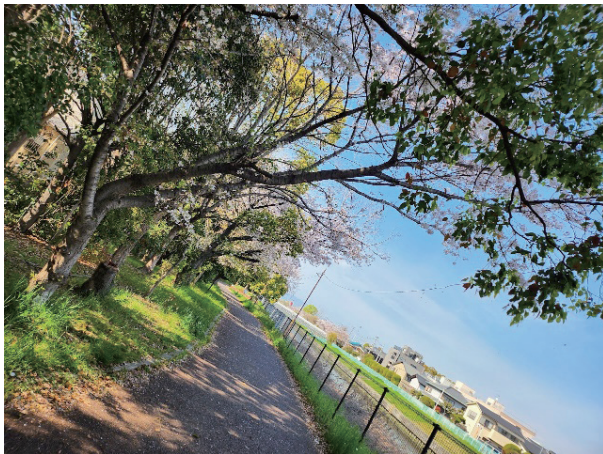


地盤技術室 田上 大稀

私事ですが、高校を卒業してセンターに入所させていただいてからもう4年が経ちました。正直、この4年間の間にコロナ禍で自粛を余儀なくされる期間があったとはいえ、今年5年目を迎えているという時間の速さと実感の無さに驚いています。

この4年間で振り返ってみると、各試験（物理試験、一軸圧縮試験、三軸圧縮試験）担当させていただきましたが、どの試験でも悩んでいた先輩方が声をかけてくださって丁寧に一つ一つ教えていただき、優しく接していただきながらすごく日々充実した時間を過ごしています。

改めて今年5年目を迎え、今年度から新卒2人をセンターに迎えて自分にとっては初めて後輩にあたる存在になりました。個人的には自分の卒業校（西野田工科高等学校）から1人このセンターに来てくれて、これから一緒に働いていけることがすごく楽しみです嬉しく思っています。それと同時に今まで各先輩の方々にしていただいたことを、これからは自分が2人にしていきたいなと思いますし、それとは別に個人の目標を掲げつつ、まだまだ分からないことがたくさんあるので、少しずつ学びながらいろんなことに挑戦していけたらなと思っています。



通勤風景



見学会の様子

# 顧問退職のごあいさつ



明石高専名誉教授 澤 孝平

この度 2023年3月31日付にて本センターの顧問を退職いたしました。思い返せば、2006年3月31日に明石高専を定年退職後、同年4月1日より本センターにお世話になり、所長を1年間余り、専務理事を2年間勤めさせて頂いた後、顧問として約14年間を過ごさせて頂きました。実に、わが人生の2割強の年月でした。

この間、最初に出会ったのが「ISO17025の試験所認定制度」でした。ISO規格やJIS規格の試験を正しく実施するためには、試験結果の正確性（品質）が求められ、これを認定するものが「試験所認定制度」です。実は、大学や高専でもその教育の品質を評価・認定する制度（JABEE）が運用され始めており、高専退職前の数年間はそれに取り組んでいました関係で、センターが目指しておられた試験所認定に向けての作業に順応することができました。その中でも試験結果の不確かさ評価には、若いころから興味を持っていましたので、楽しく取り組むことができました。

専務理事の時期には、阪神高速道路の増改築工事に伴う「センター守口試験室の移設」と「摂津試験室への統合」という大きな問題がありました。当初は、守口試験室敷地の約3/4しか買上げないという公団からの提案でしたが、何度かの話し合い・交渉の結果、最終的には全体を一括して売却でき、摂津試験室への統合整備も職員初め関係各位のご協力により、予定通り完了できました。

顧問として勤務させて頂いた間には、試験結果の精度を確認する「不確かさ評価」や「技能試験」に関わる委員会（地盤工学会内）の発足とその活動、センター職員の方々と協力して産総研の研究会や各種学会での論文発表、官公庁などの委員会への参加を通じて、楽しく過ごさせて頂きました。

本年1月末日に満80歳を迎え、センターの内規によりこの度退職いたしますが、わが国最大の規模と施設を有する「関西地盤環境研究センター」がますます充実し発展されることを願いますとともに、センター関係の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。長い間、お世話になりました。ありがとうございました。

以上は3月31日の退職時にセンター職員はじめ関係各位にお送りしたあいさつ文です。その後、4月14日にセンターの歓送迎会が開催され、新入職員2名（高野さんと細川君）と共に歓送迎されました。その会ではいつもながら新入職員の初々しさと共に希望と不安の相混じった姿に接し、できる限りのエールを贈りました。と同時に、職員の皆さんから顧問を辞した小生への心温まる声に感激しました。その中で何名かの若手職員から、センターの業務に関連して学会などへの成果発表について意欲的な気持ちを聞き、顧問としてそれらの要望に十分な支援ができていなかったことを反省した次第です。できれば、今後の顧問の先生方のお力で、このような成果発表などの機会を通じてセンター職員の能力向上が図られるとともに、組合企業の意欲的な職員らにもこのような支援が広がることを期待しています（2023年4月15日記）。



# 令和5年度 若手技術者室内試験体験会開催報告

センター長 松川 尚史

4月18日、21日に若手技術者を対象にした土質試験体験会を開催しました。本体験会はセンターの教育・技術小委員会が主催するもので、今年で5回目の開催になります。

体験会の内容は、通常の見学とは違い、実際に土を“みて”“さわって”土質試験を体感していただくことを重点に置いたものになります。

作業体験をされている参加者の中には経験者かな？と思うくらいに器用に作業される方や、中々上手くいかず四苦八苦されている方など様々な様子が見受けられました。

ご参加いただいた皆様には、本体験会を通して普段目にする機会の少ない土質試験を体感としてお持ち帰りいただき、土質試験結果を検討される際の参考になれば嬉しいと思います。

今後も本体験会は継続して開催していく予定です。より良い体験会・よりご活用していただける体験会にしていきたいと考えておりますので、ご意見、ご要望等ございましたらお気軽にお申し付けいただければ幸いです。今後ともご指導、ご協力の程、よろしくお願いいたします。



試料観察体験の様子



粒度試験体験の様子



供試体整形体験の様子



締固め試験体験の様子



# 若手技術者室内試験体験会に参加して



ピッチャーやってみました

これまでボーリング調査員として勤めていましたが、今年から試験関係の担当になりました。



株式会社白浜試験 中本 圭瑛 しょうえい

関西地盤環境研究センターで開催された若手技術者室内試験体験会に参加させていただきました。これまでボーリング調査員として勤めていましたが、今年から試験関係の担当になりました。

まず、乱れの少ない試料の押出しの体験から始まり、物理試験が行われました。物理試験では、土の含水比試験、土粒子の密度試験、ふるい分析の説明を受けました。

その後、沈降分析、土の液性限界・塑性限界試験の体験をさせていただきました。

私は、物理試験の担当をすることもあるので、この体験は自分にとって学べることも多く、貴重な経験となりました。液性限界試験で苦戦をしましたが、実際に目の前でお手本やアドバイスやコツなどを教えていただき、上げることができました。

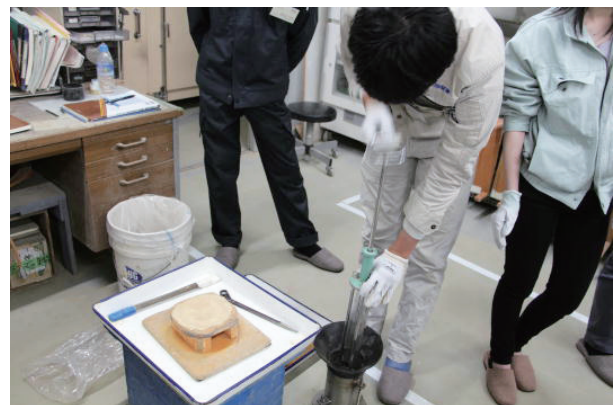
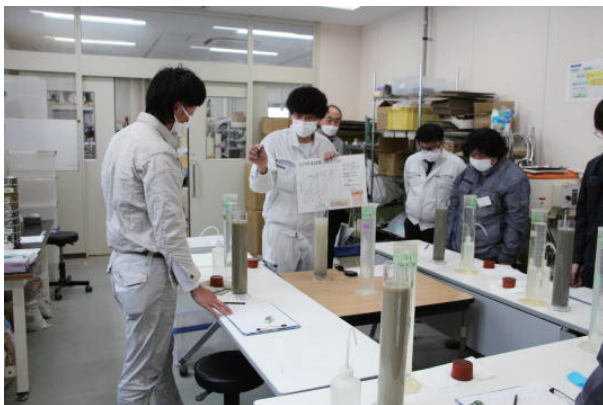
午後からは、力学試験の体験、圧密試験・繰返し非排水三軸試験の見学、材料試験の体験、岩石試験の見学をさせていただきました。

これまでに見たことのなかった試験を、見学や体験をさせてもらえたことによって、理解が深まり、より一層、興味や向上心が生まれました。

また自分の業務がどれだけ重要であり責任のあることか、改めて知ることができました。

今後は、さらに理解を深め、頑張っていきたいと思います。

ご多忙の中、試験体験会を開催し貴重な経験をさせて頂いてありがとうございました。





# 令和5年度 入所式開催報告

専務理事 中山 義久

桜咲く良く晴れた令和5年4月3日に新入職員入所式を寺西理事長、窪田副理事長、八谷副理事長の臨席を賜り開催しました。

今年の入所式は4年ぶりで、新卒の高野七海さんと細川奏太さんの2名です。昨今の人手不足、特に新卒の採用が激しい中、お二人を迎え入れることが出来、少しホッとしております。これで職員は17名となり、職員の平均年齢は2歳ほど若くなり、36歳となります。

新入職員あいさつで、高野さんは「わからないことが多いと思いますが、先輩職員の方々の姿を見て学び一日でも早くセンター職員の一員として役立てるように頑張ります。」、細川君は「アルバイト経験がないので働くことへの不安があり、センターで経験を積みながら1つ1つ不安を消して自分の自信に変えていけるような人間として育ちたい」と、力強く決意を述べました。

また入所式後、今年度よりセンターの顧問として、大阪公立大学 名誉教授 大島昭彦先生を迎える旨を、皆様に伝えました。先生は挨拶の中で早くセンターの方々と広くコミュニケーションをとり、何がセンターに役立つかを考えたいと述べられました。

その後、入所式後の恒例となっている全員の集合写真を撮影し、和やかな雰囲気の中無事終了しました。今後、センターニュース等で二人を紹介していく予定になっております。



寺西理事長の辞令交付（左：高野七海さん、右：細川奏太くん）



全員揃っての集合写真（最前列、理事長の右隣が高野さん、細川君）、最前列 右から3人目 大島先生

# 「人間死ぬまで勉強」



中廣 俊幸

私事で恐縮ですが、還暦を過ぎて大学院に入学し、3年間勉強に励んで参りました。この歳でもう一度大学生になろうと考えた理由は、人生の後半を迎えて何かやり残したことがあるように感じたからです。

大学生活の一端をご紹介しますと、研究室の主査の教官は同い年、2名の副主査は10歳以上年下で、周りは自分の子供より10歳以上若い学生ばかり。スーツ姿で学内を歩くと多くの学生は私を先生と間違っただけで挨拶してくれます。研究室は教授、准教授、助教授および学部の4年生、修士1, 2年生、留学生で構成され、総勢20名を超える年もありました。修士の2年生は就職活動と修士論文で最も多忙な学年ですが、彼らと飲みに行って、いまの若者の考え方を聞いたことは非常に刺激になりました。私が在籍していた博士課程は留学生がほとんどで、日本人は私のみでした。したがって、講義（博士課程はゼミ形式の授業がある）もコミュニケーションも全て英語です。留学生の母国は韓国、ミャンマー、中国、インドと様々ですが、インド人を除いて英語が公用語でないため、いつも話が通じているのか不安がありました。また、インド人の英語は早口で訛りが強いためほとんど聞き取れず苦労しました。ミャンマーからの留学生は家族で来ていて日本語が話せないのですが、小学生になる子供さんは日本語の小学校に通学していたらしく、子供が学校からもってきた日本語の手紙の英訳を他の学生に頼んでいました。彼は私より1年先輩で、ミャンマーでクーデターが起こる前に家族全員で帰国しましたが、クーデター後はメールに返事もない状況です。無事であれば良いのですが。韓国からの留学生は6年かけて卒業し、現在は韓国の大学で先生になったそうです。中国からの留学生は2名とも女性で、二人とも日本で外資系の会社に就職したようです。ひとは日本語もペラペラで日本に家を買って、家族を呼ぶと言ってました。この人は就職試験の論文を日本語で書いたところ、関西弁の口語をそのまま文章にしたらしく、面接時に大笑いされたそうです。

色々な国、色々な立ち位置の若者たちと過ごした3年間は、私のようなおじいちゃんにとって非常に有意義な時間だったと感じるとともに、幾つかの課題を見たように思います。ひとつは博士課程に進学する日本人の学生が非常に少ないこと。博士課程の1学年の定員は30名前後、そのうちの6～7割は留学生で、残りの日本人学生も半分は社会人です。すなわち、学部から修士、博士課程に継続して進学する学生が非常に少ないということです。その大きな理由は学部から博士課程修了までの9年間の学費の問題と、我が国が「博士」という肩書を持つ人材を有効に活用できていない現実があります。すなわち、9年間奨学金等を借りて頑張っても、仕事が無いから生活できない、借金が返せないという現実です。研究室の教授、准教授からすると、優秀な修士の学生には博士課程に進ん



でほしい、先々は自分の右腕として研究活動を手伝ってほしいと考えますが、当の学生からすると先の立場の保障（先生になれる等）や収入の保障がない状況では大学に残る選択はできないのが正直なところでしょう。近年は政府も「博士」人材の有効活用を目指した取り組みを始めており、そのひとつに博士課程を修了した学生を「ポスドク」として大学で雇用するシステムができましたが、その賃金は非常に少なく、かつ有期雇用のため、腰を据えて研究活動に取り組める環境とは到底言えない状況です。「博士」という肩書を持った若い人材が安心して研究活動を継続し、社会貢献できる環境整備を行うことの重要性を再認識しました。

もうひとつはいまの若者の処世感、人生感を垣間見たことです。私は50歳を過ぎて30年務めた会社を退職し、個人事業主となりました。そして60歳を過ぎて再び学生生活を始めたわけですが、このことに研究室の多くの学生から色々な質問を受けました。その質問の多くは「なぜ会社を辞めたのか」ではなく、「スタートアップは大変か」、「将来スタートアップを目指すには何が必要か」というものでした。私たちの世代は会社を途中で辞めることは問題児と見られる傾向が強かったですが、いまは「自分のやりたいことをやるために転職する」という傾向に変わってきています。そして、いまの若者たちは新卒で就職する前からその考え方に基づいた人生設計を行っているのです。この考え方はいまの我が国の社会環境下では危うい選択かもしれません。しかし、グローバルな視点で見ればこの考え方は当たり前になっています。未だに「年功序列」から抜け出せない企業や50歳を過ぎても会社にしがみつき老害扱いされているご同輩たち、グローバルな視点を持った若者たちにご教授頂く必要があるかもしれませんね。ある年の修士2年生の追い出し飲み会の時に、私は彼らに一言だけ伝えました。「会社のために頑張らないで、自分のために会社を利用して」と。

最後になりますが、人生80年時代、仕事をリタイアしたあとにもう一度学び直すという選択をするご同輩が増えているようです。それが社会のために役立つとは思いませんが、少なくとも充実感や自己満足は得られると思います。さらに、いまの若者たちの考え方に触れることで、コンビニの若い店員に暴言を吐くようなジジイにならずにすむかもしれません。人間死ぬまで勉強です。

# 委員の独り言

まずは、ひとこと、言わせてください・・・センターニュース 401 号、発行おめでとうございます。インテコの中谷です。

今年は、例年になく桜が早く咲いた気がする中・・・ここ 3 年ほどのコロナ禍からの規制緩和が進み、少しずつ、コロナ前に戻ろうかと動き出しております。

場所やシチュエーションによっては外せないですが、マスク着用が個人の判断となりました。けど、なかなか外せない、なんと云えば・・・恥ずかしい。あれだけマスクで顔を覆っていたので、特に、駅や電車の中なんて、恥ずかしくて外せない。そのうち、暑くなってくれば、ぼちぼち周りを見ながら、外してみようかなと。

さて、コロナ後の“ほやき”以外に、まだまだネタもないのですが、通勤に自転車を使っている私には、さらに問題がありまして・・・そう、ヘルメット着用。

この 4 月から努力義務って、曖昧な規制なんですけど、ヘルメットを被らなくても、違反で取り締まりを受けることは無いのです。が、私、毎日通勤が自転車のため、何かあってはいけませんので、購入しました、ネット通販で。被っております、ほぼシルエットはキノコです。あまりにも周りで被っている方がいないので、マスクにヘルメット、怪しさ全開です。

思えば、私のような地質調査業に就く人は、現場に出ればヘルメット着用は義務なので、ヘルメットを被ることへのハードルは、かなり低い気がします。一般の方がヘルメット着用って、なかなか抵抗があるでしょうね。

いまいち良く分からないのが、“被らんかったらどうなるの？”です。が、ネットやニュースでも、このあたりはグレーな話で、いまいち伝わってこないですね。ただ、大ケガをする前に被っておくほうが良さそうですけど、マスクと一緒に、暑くなってきたら、周りを見て外してしまいそうです。

最後に、普段現場で被っている工事用ヘルメットは、上からの衝撃には強いけど、横からの衝撃には弱いらしいです。自転車で転倒した時は、横からの衝撃になるので、自転車に乗る際は、ちゃんと自転車用を被りましょう・・・念のため、ご注意を。

(株式会社インテコ 中谷 英之 記)

## 編集後記

WBC優勝おめでとうございます。この編集後記を書いている3月下旬は、まだテレビやネットニュースではWBC一色ですが、センターニュースが発行される頃には、すっかり落ち着いていることでしょう。私も年度末の忙しい中でひと時の幸福感を味わうことが出来ました。

さて、センターニュースは、前回400号の記念号という一つの節目を迎え、今号は401号と新たな一步を踏み出しました。広報委員会も令和5年4月から新メンバーとなり、何か新しいコーナーを企画したいと思っています。

話は変わりますが、今年は卯年ですので（だいぶ時間は経ちましたが）、うちで飼っているウサギを紹介させて下さい。ライオンヘッドという小型の品種で、名前はヒメ、今年で8歳になります。うさぎの寿命は7～8年といわれていますので、もうお婆さんです。ペットショップの店員には、最初は懐かないですが5歳頃から甘えてくると言われました。飼ってみるとそのとおりで、最初はツンデレで、私の手足を“本気噛み”していましたが、数年前頃から、だんだんと懐いてきて“甘噛み”に変わりました。今は、私や家族には欠かせない存在で、癒される毎日を過ごしています。



(中央開発株式会社 杉原 普作)





# 組合員・賛助会員名簿

## 【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
株式会社 KGS	(072)279-6770	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
株式会社 興陽ボーリング	(06)6932-1590	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)6487-1111	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 ビュー設計	(088)665-7360
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)429-2623	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
株式会社 ダイヤコンサルタント 関西支社	(06)6339-9141	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

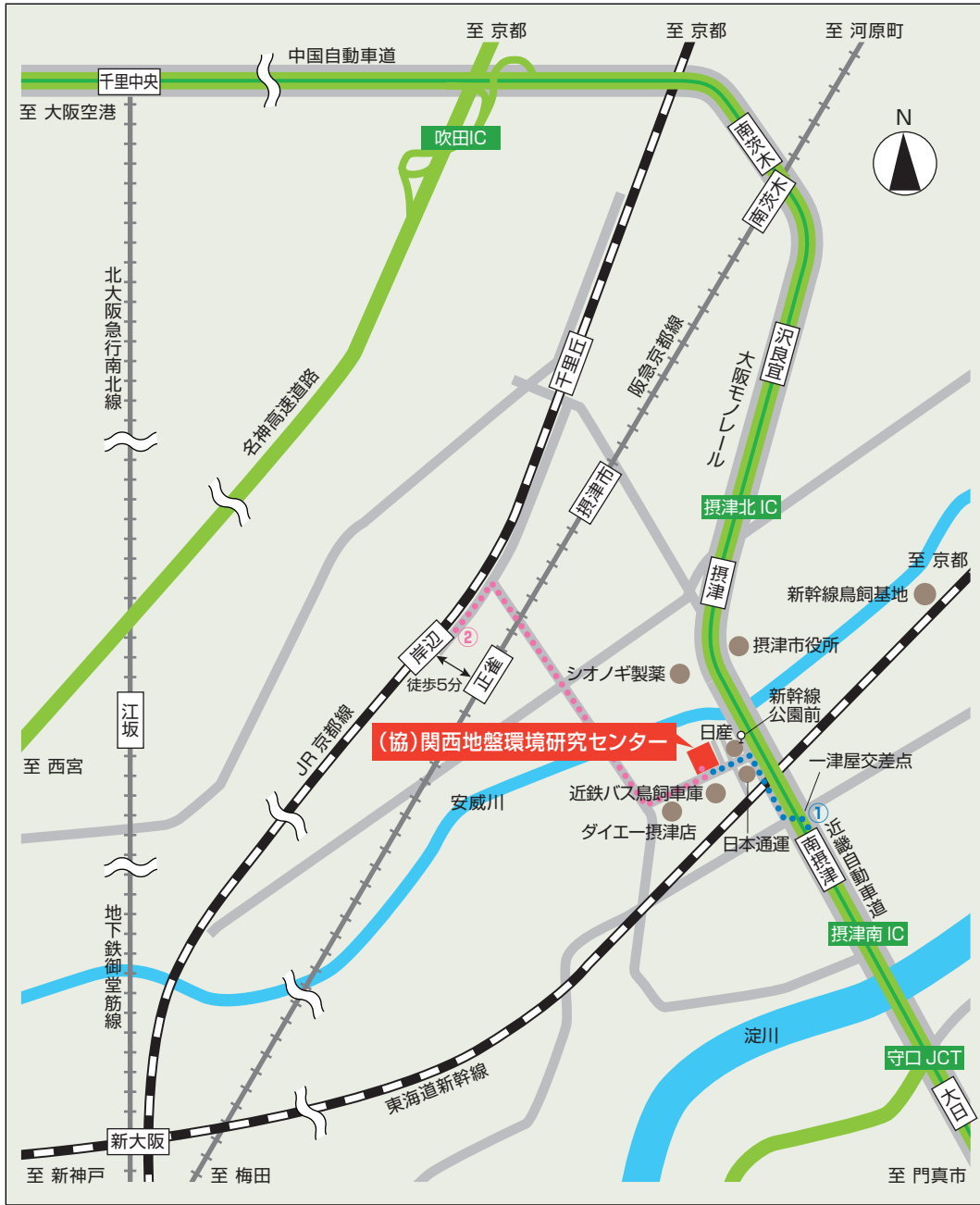
## 【賛助会員名簿】

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6531-3326	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077		

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター  
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号  
TEL 06-6827-8833 (代)  
FAX 06-6829-2256  
e-mail tech@ks-dositu.or.jp

編集 広報小委員会  
編集責任者 中山義久  
印刷 千里丘印刷

<https://www.ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分      ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

## 協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://www.ks-dositu.or.jp>